神経症状の診かた・考えかた 第3版
General Neurologyのすすめ

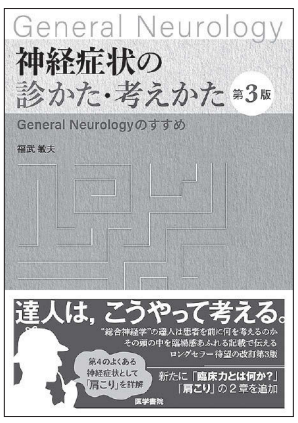
福武 敏夫●著

B5・頁440
定価：5,940円（本体5,400円＋税10%）　医学書院
ISBN978-4-260-05103-3

評者 尾久 守侑
国立病院機構下総精神医療センター

臨床感覚の重層性

本書の初版が出版されたのは2014年の5月で，病棟に出たばかりの研修医1年目だった私はこれを直ちに買って勉強をした。知らないことばかりだった。第2版が出版された2017年には精神科医2年目で，てんかんセンターに勤めていた。当然買って読んだ。知らないことばかりだった。そして第3版の出版された今年2023年はそんな私も医者10年目になった。今回は買わなかった。買う前に医学書院が本を送ってくれたからである。そして読んだ。知らないことばかりだった。



と，書くと何度も読んでいるのにその都度内容を忘れているのかと驚いてしまうが，実際全てを記憶できていない部分はまああるにせよ，そういうことを言いたいわけではない。まず第一に，内容が毎回更新されている。改訂にあたって新しい客観的知見が追記されることはしばしばあることだが，すでに熟達した臨床家である著者の臨床感覚も新鮮に更新されており驚愕（きょうがく）する。網羅性が増していること以上に，時を経て複数回テキストを再読し書き直したことによって，1冊を読み通したときにわれわれ読者に憑依する著者の臨床感覚に年輪のような重層性が生まれており，これは並大抵の医学書の改訂では起こり得ない現象だと思う。

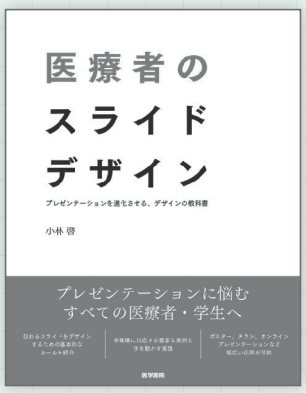
序章に置かれた「臨床力とは何か？」という文章に「臨床場面で患者に向き合う時，何か気概・情熱をもって臨むのが必要ではないか。例えば，ホスピタルツアーをここで終わりにするとか，医療・医学のレベルアップのために教科書を一行でも書き換えるとか。skillとかtechniqueではなく，そういう気概を『臨床力』と呼びたい」とあって，まさにその姿勢がこの書籍，この改訂にも表現されていると思ったし，この言葉は私が今指針とすべき意識そのものだと勝手に思った。

最初はあれこれ意識を高く持っていても，そういう気概・情熱はだんだんなくなっていくのが普通である。どんなに研修医のころデキレジだった彼や彼女も10年も経てば臨床は「生活」になっているし，そもそも臨床の現場にいないということすらしばしばある。そんな「臨床力」を何十年と持ち，磨き続けることがどれだけ困難なことか想像には難くなく，言い方は適切とは言えないかもしれないが，さらっと書かれた本のようでいて，くぐり抜けてきた地獄の数が厚みとして伝わってくるのを感じる。

私は特に「片頭痛」の項目を今回改めて読んで感じたのだが，本書のような単著は，その臨床感覚をDNAレベルに刷り込むことが1つの存在意義としてある。DNAレベルに刷り込むとはすなわち，熟達してきたときに行われる診療行為の一つひとつに，かつて読んだこの本の影響が見て取れることと言い換えることができて，私の場合はほとんどの章を読み返してこの「福武本」が私の神経診療に影響していることを再確認した。それは，可塑性の高い研修医や後期レジデントのころに読んだからということが大きいのだろうと思っていて，実は今回第3版を読んで初めて知ったことなどを診療で実践してみたときに自分の可塑性がめちゃくちゃ低くなっていることに気が付いた。自然に低くなっていく可塑性にあらがってでも新しい知識や感覚を身につけようと実践するのが「臨床力」なのだと思うので，ここは私の新しい試練ではあるのだが，もっと若い先生方でもし未読の方がいるのであれば，この第3版を必ずや購入し臨床医のDNAに組み込むことをお勧めしたい。

プレゼンテーションに悩む，すべての医療者・学生へ

医療者のスライドデザイン
プレゼンテーションを進化させる、デザインの教科書
小林 啓
●B5変型 2023年 頁200 定価:3,740円（本体3,400円+税10%）[ISBN978-4-260-04773-9]



デザイナー兼現役医師による、医療系スライドをデザインの視点から徹底的に解説する指南書。伝わるデザインにはルールがあり、ポイントを押さえることで医療のプレゼンテーションは大きく改善します。
デザインの理論だけでなく、幅広い職種に応じた多くの実例スライドを紹介し、BEFORE / AFTER形式で具体的に理解することができます。
演習問題や実例スライドを特設サイトからダウンロードし、手を動かすトレーニングが可能です。
スライドの他にも、研究ポスター、チラシ、オンラインプレゼンテーションなど、医療者が直面するデザインを見やすく、伝わりやすくするためのテクニックを多数紹介します。

Contents
Chapter 1 準備をする
Chapter 2 整える
Chapter 3 余白
Chapter 4 配色する
Chapter 5 画像にする
Chapter 6 時間を操る
Chapter 7 デザイン実例集
Chapter 8 オンラインプレゼンテーション
Chapter 9 医療とデザインの可能性

詳細はこちら

医学書院

視点 母性内科とジェネラリストの親和性

河原加奈枝，三島就子　東京都立多摩総合医療センター 救急・総合診療科 母性内科部門

母性内科という分野をご存じでしょうか。母性内科は平たく言うと，「妊婦さんのための内科」です。妊娠中だけでなく，妊娠前から産後，そして次の妊娠や更年期に向けて，女性の健康を内科的側面から全力で支えることで，より良い妊娠転帰と長期的な母児の健康維持をめざします[1]。

私（河原）は，多摩総合医療センターでの内科後期研修中に母性内科の存在を知り，卒後7年目のタイミングで国立成育医療研究センター母性内科に6か月間の短期研修をする機会に恵まれました。本稿では，母性内科研修を通して学び得る知見を報告します。

◆妊娠変化に合わせた診療

多摩総合医療センターでは，総合診療科の中に母性内科部門[2]が展開されています。同センターでの研修では妊娠高血圧症候群を中心に，貧血，喘息，胸やけ，頭痛など，妊娠中に偶発的に出てきた症状への対処法を学びました。母体のおなかに隠れた「子」の存在を意識しながらの診療は，さながら上級医の援助が常に必要な初期研修医時代に戻った気分でした。毎日の血圧測定や内服，体重管理など，わが子のために自己管理を頑張ってきた妊婦さんが無事に出産し，お母さんになっていく姿を見ることがとても嬉しく，母性内科診療にやりがいを感じるようになりました。

そして，母性内科をさらに深く知るため，2022年4〜9月に国立成育医療研究センター母性内科[3]で診療部長の金子佳代子先生，日本母性内科学会理事長である村島温子先生[4]のもとで研修させていただきました。同センターは妊娠にかかわる診療ガイドライン作成の中心になっており，各科で専門性の高い妊娠症例を管理していました。土地柄もあり，多摩総合医療センターの母性内科と比べると受診者は40歳以上の女性や不妊治療後の妊娠例が多く，必然的に妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病での管理を要する症例も多い印象でした。さらにCOVID-19が猛威を振るっていた時期でもあり，多くの妊婦さんは感染が与える子への影響や妊娠中のワクチン接種の是非，治療薬の安全性について不安を抱えていました。そのような中でも，母性内科の先生方は少ない情報を吟味して治療薬を使用するか否かを判断し，患者さんの質問に丁寧に答える診療をされていて，とても勉強になりました。

◆ジェネラリストが活躍できる母性内科

今回の研修を通して，妊婦さんの多くは慢性疾患を持っていなくても，気軽に相談できるかかりつけ医がそもそも存在しない，妊娠後に一般内科的な主訴で医療機関を訪れても「妊娠」というタグが付くだけで十分な治療を受けられないといった現状が多くあることを知りました。そのため，母性内科では一般内科と同様に総合的に診療できる医師の存在が重要であると実感しました。例えば膠原病合併妊娠の症例では，全身管理がとても重要です。原疾患以外の血圧や血糖など，妊娠変化に合わせた多角的な視点からの対処は，総合内科/総合診療科を基盤に内科研修を積んだ医師にとっても学びが多く，やりがいを感じやすいと思います。

以上の点から，母性内科とジェネラリストは非常に親和性が高く，総合内科・総合診療科で診療をされている医師には，母性内科という活躍できる土壌が広く存在し，研修を受けられる環境があることを知ってほしいと強く願っています。

その他，母性内科の診療については，2018〜20年にmedicina誌で三島が連載『母性内科の「め」妊婦・授乳婦さんのケアと薬の使い方』を執筆しています。ぜひご覧ください。

謝辞：多摩総合医療センターでの研修と本執筆の機会をいただきました綿貫聡先生，国立成育医療研究センターでの研修機会を与えてくださいました金子佳代子先生，村島温子先生に心より感謝申し上げます。

●参考文献・URL

1）日本母性内科学会. https://boseinaika.jp/
2）東京都立多摩総合医療センター．母性内科について. https://www.tmhp.jp/tama/tama-soushin/obstetric-medicine.html
3）国立成育医療研究センター．母性内科. https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/perinatal/bosei/
4）村島温子．内科医が知っておきたい，母性内科の視点．週刊医学界新聞第3263号. 2018.

●かわはら・かなえ氏/2016年筑波大卒。同年東京都立多摩総合医療センター初期臨床研修医，18年同院総合内科専攻医。22年より現職。
●みしま・しゅうこ氏/2009年福岡大卒。同年天理よろづ相談所病院総合診療教育部研修医，14年同院総合診療教育部/総合内科医員。15年国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター母性内科フェロー。19年より現職。

本邦屈指のエキスパートたちによる十二指腸腫瘍内視鏡治療手技のすべて

十二指腸腫瘍の内視鏡治療とマネジメント

消化器内視鏡治療の最前線。十二指腸腫瘍の内視鏡治療手技のすべてを集約。第一人者たちによる、十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療の決定版。実施可能なあらゆる手技を網羅。基本技術から、エキスパートならではのコツ、そして多彩な症例から治療手技の真髄を学ぶ。

編著 小山恒男
矢作直久

B5 頁292 2023年 定価：12,100円[本体11,000円＋税10%] [ISBN978-4-260-04337-3]　医学書院